

2. 読み手の期待に沿って文章を展開する (Devam)

指示語

- 指示語とは、「これ」「それ」「あれ」「どれ」などのいわゆる指示詞や「彼」「彼女」といった人称代名詞などのことを指す。

(1)あの方は鈴木さんのご夫人です。

(2)ここのラーメンは有名です。

※これらの例では、指示語の指す内容が近くにあるため、読み手は比較的理解しやすい。

(3)外国語についての学習者の意識について、アンケートを実施した。その結果を以下の図に示す。

(4)公募への応募書類を書く。今やっていることの中では、これが一番憂うつである。

(5)生きるか、死ぬか。それが問題だ。

(6)トルコには、イスタンブールやアンカラ、イズミルなどの大都市がある。これらの都市ではいずれも、人口が100万人以上である。

(7)アタテュルクは、こう述べている。人生において、最も正しい案内人とは学問である。

※これらの例では、指示語が（前の文あるいは後ろの文のどれを指しているかがわかる）ように使われているので、理解しやすい。

- 指示語が2つ以上の文にまたがって現れる場合、どの部分を指示しているのがわかりにくいと、かえって読み手の理解を妨げる文章となる。
- よって、指示語も接続詞と同様に、注意して使うようにする。
- 読み手の推測が多くなればなるほど、**書き手の意図とは異なる解釈が多くなる危険が生じる**。したがって、指示語は（文章の中で何を指しているのかがはっきりとわかる）

時にのみ使用するべきである。

問：以下の文章の問題点を指摘せよ。また、読み手がわかりやすくなるように書き改めなさい。

吉村と江畑は非常に研究熱心で、朝早くから夜遅くまでテュルク諸語について共同研究をしている。彼らの研究は国内外で高い評価を受けているので、将来ノーベル賞をもらうかもしれない。国内で吉村は奨励賞を、江畑は学会賞をすでに受賞している。吉村は受賞を大変喜んでしたが、そのようなことには彼はあまり興味がないようだ。

3. 段落

- 段落は長い文章（本文）をいくつかの部分で構成する「区切り」である。
- また、文章の要点を述べる基本単位でもあり、通常は複数の文によって構成される。
- 段落の構成とは、文章全体を書き手の考えの単位でいくつかのまとまりに区切り、読み手にわかりやすくする行為である。

読み手がある段落を読んで、次に知りたいと思うことが、次の段落にあるのが良い文章と言える。

- (Çok önemli!) 通常は、段落の始まりでは（行頭から 1 字下げ）して書き出す。

3-1 形式段落と意味段落

日本語には、形式段落と（意味段落）の段落表記がある。形式段落は表記上の段落であり、その段落がその意味を表す全てではない。意味段落は（その段落が一つの意味をもった塊）であり、通常は複数の形式段落がまとまり一つの意味段落を形成している。段落表記は改行後の 1 字下げを行うが、形式段落と意味段落が混ざった文章では行間を空けたり、罫線を入れたりすることもある。

3-2 「理論的な文章」や「仕事の文章」における段落構成

研究論文や技術文書のように理論的に論理を展開しなければならない文章では、できるだけ一つの段落が一つの要点の基本単位であることが求められ、**段落中にその段落の結論（主文；主張したいこと、中心となる考え）が明確に示されていることが求められる。**つまり、段落は主文があり、次にいくつかの（補足文）で構成するのが理想である。（主文）も（補足文）も、どちらも不可欠の要素である。

例：言語学（見出し：主題）

言語学は、まず、人間の話す自然な言葉そのものを研究の対象とする（主文）。言葉がどのような組織をもっているのか、どのような規則によって成り立っているのか、どのような方式で運用されているのか、といったことを発見し、確認することに重点を置いている（補足 1）。そのためには、個々の具体的な言語を対象として探求しなければならない（補足 2）。したがって、言葉の研究者は、世界中のあらゆる種類の言語に関心を寄せている（補足 3）。

（西田龍雄（編）（1986）『言語学を学ぶ人のために』京都：世界思想社：p3）

- 段落には主文が最後に来たり、文中に来たりする場合は実際にはある。
- しかし、これらの書き方は主文が出てくるまでは中心となる考えが何かかわからず、読み手の注意力をそらしてしまうおそれがある。
- このことを考慮に入れるなら、段落のはじめにはまず主文があり、次にこの主文に具体的な例や説明、理由などを加える補足文を続けるようにするのが、書き手の手法としては望ましい。

※次回以降の作文では、書き始める前に段落構成をよく考えること。

また、手書きの場合、ワープロソフトによる文書作成の場合どちらでも、「一字下げ」を必ず行う。この手間は、読み手のために行うものである。

参考文献・資料

清水明美（他編）（2011）『Practical 日本語 文章表現編—成功する型—』（改訂版）．東京：おうふう．

林治郎・岡田三津子（編著）（2008）『改訂版 言語表現技術ハンドブック』．大阪：晃洋書房．